

# 北海道 個別避難計画作成促進事業

令和6年度 第4回 都道府県個別避難計画推進会議  
個別避難計画作成モデル事業成果発表会

令和7年3月7日(金) 14:00～

北海道保健福祉部総務課 危機管理係  
総務部危機対策局危機対策課 災害対策係

## 取組の経緯

- 昨今の自然災害による要配慮者への被害の集中や日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震の被害想定が公表されるなど、災害時の要配慮者対策を推進していくことが非常に重要であると認識。
- 令和4年度からモデル事業を活用し、個別避難計画の推進に向けて取り組みを進めているが、本道における個別避難計画の策定は、徐々に進んでいるものの、全国と比較して進んでいない状況。

## ※令和4年度の実施内容

- ・ 全体研修会の開催
- ・ 個別研修会の開催（全7回）
- ・ 未策定市町村への個別訪問など

## ※令和5年度の実施内容

- ・ 個別避難計画作成プロセスの確立支援（2町）
- ・ 全体研修会、事例共有会の開催（各1回）
- ・ 個別相談会の開催（1市2町）
- ・ 未策定市町村への個別訪問、普及啓発動画の作成など

- 本道における市町村の個別避難計画の策定状況を踏まえ、福祉部局・防災部局が市町村支援が重要との共通認識の下、令和6年度においても、本モデル事業を活用させていただき、引き続き市町村における個別避難計画の取組を推進させるため、応募するに至った。

## (参考)

北海道内の個別避難計画作成状況（令和6年4月1日現在 内閣府・消防庁調査）

	全部策定	一部策定	未策定
北海道 (179)	12.9% (23)	69.8% (125)	17.3% (31)
全国	91.8%		8.2%

## 取組のポイント

- ・道内全市町村を対象とした研修会、未策定市町村のみを対象とした研修会の実施
- ・アドバイザー同行のもと、未策定市町村を中心に伴走型支援・個別訪問等を実施

## 取組実績

## ●未策定市町村を対象とした基礎研修会（25市町村）

- ・有識者による講演
- ・道内の自治体からの取組事例紹介

## Point !

個別避難計画の制度趣旨等について、時間をかけて丁寧に説明

## ●個別避難計画作成モデル事業による全体研修会（73市町村・1団体）

- ・内閣府による制度説明、有識者及び札幌管区気象台による講演
- ・道外の先行自治体からの取組事例紹介

## ●個別避難計画作成モデル事業による全体研修会②（※3月3日開催予定）

- ・有識者及び札幌管区気象台による講演
- ・道外の先行自治体からの取組事例紹介

●未策定市町村を中心に  
伴走型支援・個別訪問等を実施

- ・年間を通じたアドバイザー派遣による個別支援
- ・未策定市町村を中心とした、プッシュ型の支援（アドバイザー同行による個別訪問）
- ・道・市町村・アドバイザーの3者による個別相談会（オンライン）

## ●その他

- ・市町村が実施する個別避難計画の実証も含めた避難訓練への参画
- ・自治体・関係団体が主催する会議・研修会にて、行政説明
- ・道内の全保健所長が出席する会議にて、市町村に対する個別避難計画の取組支援について依頼等

個別避難計画作成モデル事業による  
未策定市町村を対象とした基礎研修会 次席

日 時：令和5年3月21日（金）13:30~15:30  
開催方法：ハイブリッド開催（現地・オンライン併用）

- 1 開 会・開 幕 13:30-13:35  
北海道保健福祉部総務課
- 2 講 演 【資料1】 13:35-15:05  
一般社団法人Nii Ibe Design 理事長 橋本 隆二 氏
- 3 取組事例紹介 【資料2】 15:05-15:30  
高知市中央地区防災協議会 田中 利雄 氏
- 4 事務局・閉 会 【資料3】 15:30-15:35  
北海道保健福祉部総務課

## 個別避難計画作成モデル事業による全体研修会 次席

日 時：令和5年3月3日（月）14:00~16:00  
開催方法：Zoomによるオンライン開催

- 1 開 会・開 幕 14:00-14:05  
北海道保健福祉部総務課
- 2 講 演 【資料1】 14:05-14:25  
内閣府防災担当官（防災担当）付参事官（防災担当）付参事官補佐 藤田 亮 氏
- 3 講 演 【資料2】 14:25-14:40  
札幌管区気象台気象防災地域防災推進課課長補佐 浅利 孝代 氏
- 4 取組事例紹介 【資料3】 14:40-15:30  
愛知県津島市ウェルビーイング推進課 西村 優希 氏  
福 祉 部 長 岸 加藤 貴士 氏
- 5 講 演 【資料4】 15:30-15:55  
一般社団法人Nii Ibe Design 理事長 橋本 隆二 氏
- 6 事務局・閉 会 【資料5】 15:55-16:00  
北海道保健福祉部総務課

## 個別避難計画作成モデル事業による全体研修会② 次席

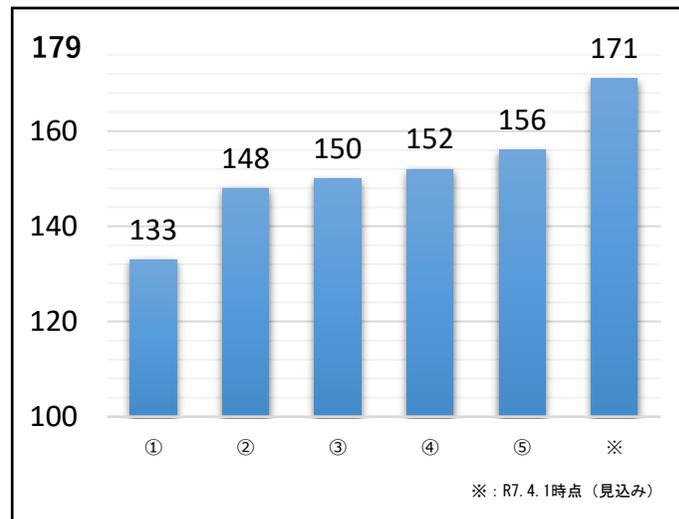
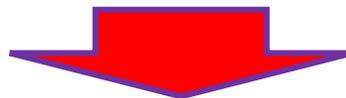
日 時：令和5年3月3日（月）15:00~17:30  
開催方法：Zoomによるオンライン開催

- 1 開 会・開 幕 15:00-15:05  
北海道保健福祉部総務課
- 2 講 演 【資料1】 15:05-15:55  
鎌倉学園女子大学観光コミュニケーション学助教授 藤原 一 氏
- 3 取組事例紹介 【資料2】 15:55-16:40  
岡山県岡山市色麻管理区 辻藤 真那 氏
- 4 講 演 【資料3】 16:40-16:55  
札幌管区気象台気象防災地域防災推進課課長補佐 浅利 孝代 氏
- 5 講 演 【資料4】 16:55-17:25  
一般社団法人Nii Ibe Design 理事長 橋本 隆二 氏
- 6 事務局・閉 会 【資料5】 17:25-17:30  
北海道保健福祉部総務課

個別避難計画策定状況

	道独自調査 (R6.1.1現在) ①	国調査 (R6.4.1現在) ②	道独自調査 (R6.6.1現在) ③	道独自調査 (R6.10.1現在) ④	道独自調査 (R7.1.1現在) ⑤
策定済み※	133	148	150	152	155
未策定	46	31	29	27	24
R5年度中	23	-	-	-	-
R6年度中	23	-	29	20	16
R7年度中	0	-	0	7	8

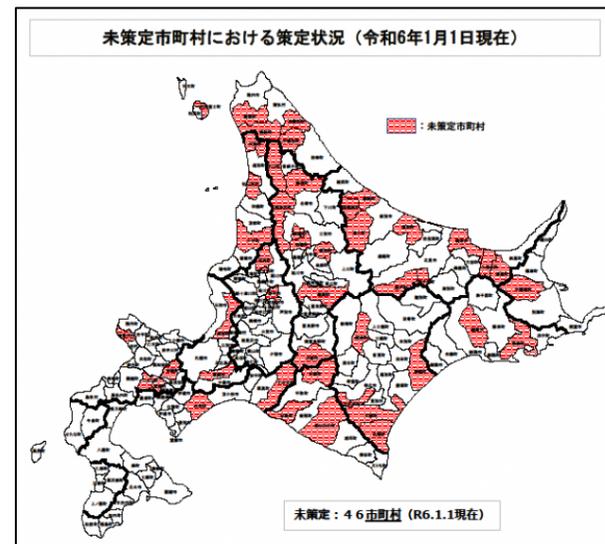
※ 一部策定済み市町村を含む。



目 標	未策定市町村数の減少	一部策定市町村の取組の加速化
取組結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎未策定市町村数が減少</li> <li>●アドバイザーによる個別支援（個別訪問）を実施してもなお、年度内の策定が見込めない自治体が複数存在</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎道内全体の個別避難計画作成数が増加</li> </ul>
結果の理由・背景など考察	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎アドバイザーによる個別支援（個別訪問）や研修会の開催などにより、制度趣旨や取組方法等に関する市町村職員の理解がより進んだことに加え、庁内における個別避難計画の取組に係る業務の優先度が高くなったことが考えられる。</li> <li>●個別避難計画の取組の必要性は十分理解いただいているが、担当部局職員の退職・休職等によるマンパワー不足が発生し、頓挫するケースが見受けられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎道内外において、好事例のモデルとなる市町村が増加したことに加え、市町村における個別避難計画の取組意義等の理解がより深まったことが考えられる。</li> <li>●プッシュ型の支援（個別訪問）は、未策定市町村を中心に実施しており、潜在的に取組に苦慮している市町村への支援が不十分。</li> </ul>
R7以降の取組の検討（主なもの）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○積極的なプッシュ型支援の実施</li> <li>○未策定市町村に対する継続的・重点的な支援</li> <li>○関係団体等が実施する研修会等への参画</li> <li>○先進市町村の事例収集・情報提供</li> </ul>	

## 成果が得られたこと

- 個別支援・個別訪問を実施した自治体において、個別避難計画の取組を進めることができた。
- 研修会等を通じて、個別避難計画作成の取組の加速化を促進することができた。
- 道として、市町村の個別避難計画作成に係る取組の難しさや課題などを、個別支援を通じて、より把握することができた。
- R5年度のモデル事業により伴走型支援を行った自治体の取組が、小規模自治体におけるロールモデルとしての役割を果たしていること。
- 個別支援等を通じて、市町村との連携が深まった。
- 地域単位での取組が、徐々にではあるが進んでいる。



## 成果が得られなかったこと

- 未策定市町村に対しては、進捗状況調査やアドバイザー同行による個別訪問等により、策定までのプロセス等について助言を行ってきたが、年度内の策定が困難な市町村が複数存在。  
⇒**対面による支援の実施は効果的であったが、取組が全く進まない自治体に対しては、継続的な支援が重要！**
- 取組が停滞している一部策定済み市町村への支援  
⇒潜在的に支援を求めている市町村は一定数存在していると思われるが、自ら支援を求めることはあまりない。  
**プッシュ型の支援が非常に重要！**

